Fukagawa Rotary Club

R I 第 2510 地区第 1 グループ 深川ロータリークラブ

持続可能な
インパクトを
生み出そう

国際奉仕委員会クラブフォーラム

国　際　奉　仕　委　員　会

11月24日(火)

NO 3115 第 15 回例会



RI2510 地区　クラブ奉仕委員長　松下早苗様

例　会　案　内

11 月～ 12 月」例会案内

11月24日(火) 国際奉仕（冨士屋）
12月　1日(火) 例会運営委員会担当例会
12月　8日(火) クリスマス家族会
12月15日(火) 準法廷休会
12月22日(火) 年忘れ例会　上半期中間報告

出　席　報　告

11 月 17 日例会

総 会 員 数　27名
欠 席 者 数　12 名　石川，井上，津田，吉居，島田 圓浄，遠藤，宮岸，廣上，飛弾野，武田，樋口各会員
出　席　率　55，56％
前回メーキャップ　3名　圓浄，飛弾野，宮澤各会員
前回修正出席率　70，04％

会長報告

木村 喜芳会長

通算 3114 回、本年度第 14 回の例会を開催いたします。

初めに本日のゲストを紹介させて頂きます。国際ロータリー 2510 地区、クラブ奉仕委員会、地区委員長、栗山 RC 所属　松下早苗　様です。

遠いところ深川クラブのためにお越し頂き誠にありがとうございます。後ほど、森委員長からご紹介と松下様からの卓話を頂きます、どうぞよろしくお願い致します。

続きまして、お悔やみのお知らせです。圓浄貴之パスト会長のご母堂　圓浄春子様が 11 月 12 日に満 88 歳でご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

さて、11 月 3 日は文化の日でした。8 名の方が文化勲章を受章されました。ピンク・レディーに楽曲提供した作曲家の都倉俊一氏。「ファミコン」ブームの立役者でゲームプロデューサーの宮本茂氏などなど。私が注目の は、建築家の伊東豊雄氏。東日本大震災の復興支援で被災者のためのコミュニティ拠点をつくる「みんなの家」プロジェクトを主導した建築家です。震災直後、行政が主導した一律で無機質な仮設住宅のあり方に疑問を抱き、同じ建築家の隈研吾氏らと共に「帰るべき家を失った人々のために建築家は何ができるか」を議論し、この活動を立ち上げました。そこで当時新進気鋭の若手建築家だった藤本壮介氏、乾久美子氏、平田晃久氏の 3 人を集めて、「3 人で役割分担をせず、1 つの建物を完全に全員で設計しなさい」という前代未聞の指示を出しました。これは「自分のスタイルをぶつけ合って戦え」と言われているに等しい超過酷な環境で、藤本氏ら 3 人は何度も集まって議論を重ね、120 個以上の模型を作りましたが全く話がまとまりませんでした。しかし、突破口となったのは、陸前高田で、津波の塩害によって立ち枯れてしまった「スギの丸太」との出会いです。この丸太をそのまま建築の「柱」として使おうと決まった瞬間、3 人の議論が奇跡的にひとつの方向へ収束し、立ち枯れた丸太の力強い存在感から、螺旋状の階段が空へと伸びる、温かみのある唯一無二の木造建築、みんなの家が誕生しました。その建築は 2012 年、イタリアで開催された「第 13 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」で最高賞である「金獅子賞」を受賞しました。「建築とは誰のためにあるのか」という、災害に直面した建築家の本質的な問いかけが世界中で大きな共感と感動を呼びました。伊東豊雄氏のこの「みんなの家」の取り組みは、その後の熊本地震や能登半島地震における日本の災害復興建築のあり方に今もなお、大きな影響を与え続けています。伊東豊雄氏の愛弟子と言える、藤本壮介氏は、その後あの大阪万博の大屋根リングを設計した建築家となりました。藤本氏は当時を振り返り「伊東さんに極限まで追い込まれたことで、建築とは何かを心の底から考えさせられた」と語っています。震災の復興で世代を超えた建築家たちがエゴを捨て、被災者のために奔走したこの歴史は、今も生かされているのだと感じました。実は藤本壮介君は私の高校二年生の時のクラスメートなのです。現在、藤本壮介建築設計事務所は、東京だけでなく、フランスと中国にも事務所を構え世界的に活躍されています。ということで私にとってちょっと嬉しい文化の日でした。

RI2510 地区　クラブ奉仕委員長　松下早苗様　卓話

このたび卓話の機会をいただき、ロータリーとの関わりや、これからのクラブ運営について感じていることをお話ししたいと思います。私は栗山ロータリークラブに所属していますが、実はロータリー二世です。父も長年ロータリアンとして活動し、四十年にわたり地域やクラブのために尽力してきました。

父の姿を通して見ていたロータリーは、単なる親睦団体ではありませんでした。

毎日のように会員が集まり、時には激しい議論を交わしながらも、翌日にはまた顔を合わせ、地域をより良くするために真剣に話し合う人たちの集まりでした。何よりも「自分たちに何ができるか」を本気で考え続ける熱い集団だったことを今でも覚えています。

父の死後、ある先輩ロータリアンから強く入会を勧められたことがきっかけで、私もロータリーに入会しました。

その先輩もまた非常に情熱的な方で、病床にあってもクラブのことを心配し、仲間に伝えたい思いを持ち続けていました。その姿からも、ロータリーへの深い愛情と使命感を感じました。

しかし正直なところ、入会した当初は三年ほどで退会するつもりでした。

ところが二年目に地区の職業奉仕委員会へ参加する機会をいただき、多くの先輩ロータリアンと接することで考え方が変わっていきました。最初は専門的な議論についていけず戸惑うこともありましたが、地区活動やメークアップへの参加を通じて多くの仲間と出会い、次第にロータリーの魅力や奥深さを知ることができました。

さまざまな経験を積む中で、ロータリーは自ら楽しみを見つけることで何倍も面白くなる組織だと感じるようになったのです。

ロータリーの良さは、各クラブがそれぞれ独自の特色を持っていることです。同じ例会でもクラブによって雰囲気や運営方法が異なります。他クラブの良い点を学び、自クラブの強みをさらに伸ばしていくことで、より魅力的なクラブづくりが可能になります。また、青少年交換事業などを通じて若い世代に世界を見せられることもロータリーの大きな魅力です。異文化に触れ、語学を学び、多様な価値観を体験することは若者にとって大きな財産になります。ぜひ会員の皆様にも、お子さんやお孫さんにそのような機会を提供していただきたいと思います。

今回特にお伝えしたかったのは、「未来ビジョン」の大切さです。近年、地区では未来ビジョン委員会の設置を推奨しています。これは決して地区の方針を押し付けるものではなく、クラブが五年後、十年後にどのような姿を目指すのかを会員全員で考え、その実現に向けて歩むための仕組みです。将来像を共有しなければ、クラブは毎年方針が変わり、積み重ねが生まれません。まず目指す姿を描き、そのために今年何を行うのかを考えることが重要です。例えば会員増強を目標にする場合も、実現可能で会員全員が納得できる目標を設定することが大切です。

そして、その目標に向けて具体的な行動計画を立てる必要があります。しかし、計画と同じくらい重要なのが「検証」です。実施した活動が効果的だったのか、目標に近づけたのかを振り返り、次年度へ生かしていかなければなりません。ロータリーでは活動の実施は熱心に行われますが、十分な検証が行われないこともあります。だからこそ毎年の評価と改善を繰り返しながら、より良いクラブを目指していくことが必要なのです。

また、未来ビジョンを継続するためには、会長だけに任せるのではなく、現会長、直前会長、会長エレクトなどが連携しながら次年度へ引き継いでいくことが欠かせません。会長ごとの特色を生かしながらも、クラブとしての長期的な方向性は維持していく。そのためには現状分析も重要です。会員満足度調査などを活用し、会員が何を考え、何を望んでいるのかを把握したうえで、将来のビジョンを描いていく必要があります。

今回訪問した深川ＲＣクラブでは、まさにそのような取り組みが行われていました。一部の役員だけで方向性を決めるのではなく、多くの会員が意見を出し合いながらクラブ運営を進めていることに感銘を受けました。

ロータリーの本来の魅力は、会員一人ひとりが主体的に参加し、共通の目標に向かって力を合わせることにあります。これからも会員全員で未来を語り合い、検証を重ねながら、地域社会に貢献できるより良いクラブづくりを進めていただきたいと思います。

深川RC 例会運営委員会
委員長 佐々木弘有
副委員長 轡田光章

会長 木村喜芳　会長エレクト 平瀬文男　副会長 森隆江
幹事 清水秀晃　副幹事 山腋康弘　会計 廣上晃士

深川RC
■例会場 ラ・カンパーニュホテル深川　■例会日 毎週火曜日
■事務局 〒074-0004 深川市4条9番40号 プラザ深川3F TEL (0164)34-6228　■第2510地区第1グループ
■ URL http://mypage.fukanavi.com/rotary/ ■ Mail fukagawa-RC@club502.jp